

**平成30年度
第3回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：平成30年10月29日(月)

場 所：鶴岡市藤島庁舎

3階大会議室

第3回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 平成30年10月29日(月) 午前10時～12時10分
- 会 場 鶴岡市藤島庁舎3階大会議室
- 出席委員（五十音順） 8名
石川均、石塚健、上野隆一、菅原きよ、高山千代子、
成澤正喜、半澤正昭、前田恵
- 欠席委員 7名 阿部啓郎、井上佳奈子、佐藤耕喜、佐藤二美、田中壽一、富樫達喜、
本間亮、
- オブザーバー 県立庄内農業高等学校校長 青柳晴雄
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 武田壮一、総務企画課課長 菅原司
市民福祉課課長 伊原千佳子、
産業建設課課長兼エコタウン室長 小林正雄、
農業委員会参事兼事務局長 三浦市樹
総務企画課課長補佐 叶野仁、総務企画課コミュニティ防災主査 齋藤隆
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、総務企画課コミュニティ防災
専門員 工藤仁、総務企画課専門員 叶野進、市民福祉課課長補佐 今野
重明、市民福祉課健康福祉主査 小林 学、産業建設課課長補佐 成澤啓
雄、産業建設課エコタウン室主査 高橋智也、産業建設課産業振興専門員
鈴木理恵
〈本所〉 企画部地域振興課地域振興専門員 本間育子
- 傍聴者 加藤鉦一
- 次 第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 報 告
市民からの意見聴取概要
 - 4 協 議
藤島地域振興計画（素案）及びまちづくり未来事業（案）について
 - 5 そ の 他
 - 6 閉 会

【会議概要】

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

市民からの意見聴取概要

4 協 議

藤島地域振興計画（素案）及びまちづくり未来事業（案）について

5 その他

6 閉 会

2. 上野 会長挨拶

皆さん、おはようございます。今回、第3回目の懇談会になりました。おかげさまで1回目2回目と皆さんから非常に活発な意見をいただき、だんだんと計画が具体化しつつあります。今日は計画素案もできておるようです。今回、3回目で最終的な計画、最終的などという意味は来年度2019年から2023年までの5ヵ年間、これの藤島地域の計画案を作成するという運びになるわけです。ここ半年ほどの間にこの懇談会は2回ですがその他にも、この資料の1番のところに今までの地域の計画案作りに絡んでの会議状況がいろいろ書いてあります。懇談会だけではなくて農業振興会議であったりJAたがわの青年部であったり歴史公園のワークショップであったり、いろんなところからいろんなご意見をいただいて、それがだんだん集約化されて今日配布の資料になっておるわけです。今日はそのに対して皆さんからご意見をいただいて最終的な計画作りをするための内容にしていきたいという考えのようです。多分、今回の計画に反映される最終的な段階なのだろうと思いますので、まずは奇譚のない意見をいただいて地域の役に立つための計画作りをしていきたいと考えます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 報 告

市民からの意見聴取概要

— 資料1により説明 — 総務企画課 地域まちづくり企画調整主査

○上野 会長 4ページ目の4番その他の9番でランドセルの購入は考えていないということでしたが、何か代替りの対策というのはあるのでしょうか。

○菅原 総務企画課長 今、教育委員会では経済的な事情等でお困りの方に関しましては学用品であるとか給食費も含めまして就学費用の一部を援助する制度、就学援助でございますが、そういった対応がございます。その中で新入学の児童生徒の学用品ということでは、入学前に支給する措置も実施して行っているところであります。

○**上野 会長** ちょっと余計な話かもしれませんが、助成を受けた人、つまり助成を受けたということは生活が苦しいということの代名詞になるのだと思いますが、そういうようなことはみんなにわかるようになっていく？わからないようになっていく？要するに受けて喜ぶか、受けてちょっと困るという場合もあるのではないかと思うのです。そういうような配慮があるのかないのか。細かい意見ですみません。

○**菅原 総務企画課長** 具体的な制度の運営については承知してはなくて申し訳ないのですが、ただ、本人の申請を受けていただきたいと思いますので公表しながらではないはずですが、

○**OA 委員** 今のお話で公表してはやっぱりおかしいのではないかと思います。公表はしないでやっていただきたいと思います。そういう手続きでやっているのではないのでしょうか。

○**伊原 市民福祉課長** 本人の申請を元に給付という形で金額の助成をというふうに認識しております。

○**B 委員** ランドセルに関しては、今、選択肢がすごく広がっています。色の選択肢がすごく増えてきていて、町内会や市の方からランドセルがもらえるよとなっても喜ぶ家庭とどうしようかなとちょっと相談しなければならない家庭とそれぞれあると思います。

○**上野 会長** やっぱりその親切の押し売りというのも考えものですね。

4. 協 議

藤島地域振興計画（素案）及びまちづくり未来事業（案）について

- 資料 により説明 — 総務企画課 地域まちづくり企画調整主査
武田支所長
産業建設課エコタウン室主査
産業建設課農業振興専門員

○**上野 会長** 最初に基本方針の2を説明していただきました。2というのは歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進ということですが、それから3の説明もしてもらいました。くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築。それから最後に結構長い時間を使って豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現と、順序を追って説明をもらいました。皆さんはやっぱり最後に説明されたイメージが今現在は強いと思いますが、時間は1時間近くありますのですぐに質問ないし討論にまいりましょうか、あまりこだわらないで。関心の強いところから農業なら農業ということで。あとは事務局の方で適当に基

本方針の2番3番があればそちらの方にも。まず農業の方についていきましょうか。

〇〇 委員 先ほど支所長から総合計画の農業分野、市全体の考え方を示されたわけですが、この場でいうのが適切なのかどうか、あるいは話がちょっと別の方向に行ってしまうかわかりませんが、ご承知のとおり鶴岡市内には2つの農協があるということで、市の政策、施策が2つの農協に共通として認識され同じような恰好で進められるのかどうかですよね。先ほどちょっと“庄内たがわの方では”というような形でこの藤島の関わっている農協についてはまずは一応連携が取れているような感じで印象は受けているのですが、市全体の農業政策として両農協が同じような方向に向かえるのか、向かっているのか最初にお聞きしたいと思います。

〇武田支所長 今回の総合計画もそうですし、総合計画の実施計画版というのでアグリプランがあるのですが、これは4年刻みです。そういった市の農業振興に係る計画策定においては全て農協で策定する中期計画、長期計画は農協の振興計画があります。農協の場合は3年毎にローリングしていきますが、それらと整合性を取って、市全体で同じ足並みで進めるということをやはり意識して策定しております。ただ、2つの農協それぞれ特徴がありますのでちょっとその辺の折り合いで苦労するという点ではありますが、基本的には農協の計画と市の計画は同じ方向を向いているとご理解いただければと思います。

〇〇 委員 できれば両農協が共通の認識で同じ方向を向ければ1つの力が2つの力になると、ちょっと思ったものですから。

〇武田支所長 1つご紹介しますと、今回、ネギも振興品目の柱に取り入れますが、ネギは露地ネギとハウスですが軟白ねぎがあります。今、鶴岡市では軟白の方は雪中軟白というネーミングでブランド化を図ろうとしております。これも以前は庄内たがわとJA鶴岡では規格が違って一緒にプロモーションできなかったのですが、これを2、3年前から規格を統一してネーミングも同じ雪中軟白として一緒に売り込むという取り組みを開始しております。最近JA鶴岡が結構頻繁にDASH村とかテレビに出るようになってきて雪中軟白ねぎの値段も上がってきたのですが、それに伴って庄内たがわの価格も上がっているというような相乗効果が出ています。こうした取り組みをもっと増やしたいなという段階ではあるのですが、なかなかその品目がネギからもっと拡大できるかという。枝豆も一緒になれば一番良いのですがまだまだそこには障害があるという感じです。

〇〇 委員 では、少し基本方針の中で何点か。1つは1ページ目の土づくりということで、良質堆肥の生産。これは有機農業、有機農産物を拡大拡充していくためには必要だということでは理解できるのですが、問題は畜産農家の減少傾向。いわゆる原料の確保ができるかどうかという点と搬送過程の中で地元集落からの理解を得られているのか得られるのか。

今までもそこが1つの課題として言われてきたわけですが。そうした点をどう考えていくのかというのが1つ。

2点目として販売額と所得額の話がありました。この販売額一千万に対する所得の話が出てきたわけですが、市全体の一般的な平均所得額がどのくらいで農家をやっていく、或いは新規農業を受け入れようとして育っていくのか。参入できるのかといったときにその水準で良いのか。23%の所得率で低く見ているということなのですが、普通の商店から考えると所得率がちょっと低すぎるかなという気もします。そうすると販売額が一千万で良いのかという別の問題もあります。当然、売ったものがすぐにそのまま所得になるわけではないので、そこの所得率を高めるというのもやはり必要なのかなと。販売額だけではなく所得率をいかに引き上げるかというような検討も必要なのかなと思いました。この素案ではいろいろな文章表現という形の総論的な形になっているわけですが、具体的な実施計画の中ではできればいろんな意味で数値目標、そしてその経過した後はその実績と分析とかそういったサイクル、検証が必要となってくると思います。これだけの目標を立てたけれどもそれを超えたとかそこまできなかつたとか、ではその原因は何だったのかということが次のステップに行くと思うので、一つ希望として検討してほしいと思います。

○武田支所長 1点目の堆肥の活用、畜産との絡みの部分でお話ししますと、まさに本所農政課との連携が重要な取り組みだと思います。まず、畜産ですがご推察のとおり年々縮小傾向にはあります。ただ、畜産農家は少しずつ微減傾向にあるのですが残った農家が少しずつ拡大して頭数は維持されている傾向にあります。何とかそれを維持していきたいということ。それから特に現在、畜産は企業畜産的な取り組みが進みつつありますので、そういったところと連携して畜糞を確保しながら優良堆肥を生産するというようなところもやっぱりきっちりとすすめていかなければいけないと、その両面で今、農政課の方では考えていると思います。将来的な確保が可能かということになるわけですが、これはTPPとかFTAとかそういったところにもかなり絡んでくるのですが、まず、政府のまるきんなどの手立てがされれば現状の頭数の維持は当面は可能ではないかなと思います。ただ、市全体で堆肥を活用している面積は、市全体で水田面積は16,000haあるのですが、2,000か3,000haぐらいしか活用されていない実態です。そのぐらいにしか提供できていないというのが鶴岡市の実態かと思います。では有機栽培をすすめる上でこの堆肥が無くてできるのかということになります。やはり有機栽培はいろいろなやり方がありますので、畜糞を使ってやる人、全く有機質肥料だけで取り組む人、両面ありますのでその辺はいろいろな技術を使えばまだまだ拡大は可能ではないかなと思います。

所得の部分ですが、ちょっと今日は二十数%という所得率はやっぱり全国平均ですのでかなり下めの数字だと思っています。そのへんの整理をもう少ししたうえでお示しすれば良かったのですがちょっと時間がなくてそこまではできませんでした。当初、一千万を想定した理由はそこをクリアすれば認定農業者で目標としている一人あたり400万の所得をクリアできると、それが実現できれば担い手、後継者も少し魅力に感じて増えるの

ではないかという考えで一千万という数字を設定した経過がございます。そのへんの販売額と所得率の問題はもう少しきっちり精査していきたいと思っております。

〇〇 委員 この今の一千万を設定した所得が大体一人 400 万だということですが、今回示された資料だと例 2 のはえぬき+ネギで 300 万をきるような所得ですよ。この資料が整備されるともう少しこの所得金額がはっきり見えてくるのかなと思って。単純にこれだけだとこれにしかないのかなと思うし、そうすると農業はまだまだ厳しい、儲からない農業、販売額一千万ではちょっと足りないのかなと受け止めてしまうものですから。先ほど希望した、数値目標を決めたら結果について分析して欲しいなという感じがします。

〇〇 委員 今、説明を受けたわけですが、各分野に渡っての藤島の地域特性を活かした地域振興計画と未来まちづくり事業計画の案が出されておりますし、丸ごと藤島という観点から見れば活性化、そして住みよいまちづくりに繋がるのではないのかなと思っておりますし、これもいろんな分野で話し合いがなされ各部署で担当が意欲と責任をもって取り組まれていますのでまちづくり未来事業の目的としているところでもあろうと思っております。これからは実行の段階となりますし地域住民の理解を得ながらいかに庁舎と住民が一体となって取り組んでいくかがテーマであろうかと思っております。

農業分野であります。人と環境に優しい農業ということで農業者自身もイメージは、藤島に住んでいるということで、そういうイメージはあるわけですが、有機農業を強調していますが取り組み者が 1.5%ということで誰でも取り組めるわけではないと思います。つや姫の場合も特別栽培米ということで謳っております。そういう特別栽培米も含めたイメージアップとかそういうことを狙っていったらなと思っております。販売面についても農協と個人個人それぞれがやっておりますが、やはり環境に優しい農業を藤島として活かしていくためには藤島の庁舎が窓口になって販売面も少し取り組むことができたらなと思っております。園芸振興についてですが、今の後継者となる担い手の農家は委託などで規模拡大を行って園芸振興まではなかなか手が回らない状況ではないかなと思っております。やはりコメだけではダメだということでモデル農家やモデル組織を伴いながら推進していけばと思ったりもしています。

〇武田支所長 情報提供ですが、農業振興において庁舎の方も JA と何回か意見交換を重ねております。こういった振興策を打ち出して実際すすめていく段階では、きちっとした組織があってその中で市も JA も農業者も一緒になってすすめるということが重要ですので、組織化も考えています。今、まだ仮称で設立もしていないのですが藤島地域農産物元気クラブというのを立ち上げ、その中にコメの部会や枝豆の部会、ネギ部会だとかをきちっと部会化してその中で売り込みをしたり実施要項を作ったりというような取組、地域全体を見てやるというようなことを考えております。それは今年度中に立ち上げて具体化していきたいと思っております。

○D 委員 そういう庁舎が先導していくような格好ですすめていかないとなかなか農家主体では難しいと思いますので、そういうことすすめてもらいたいと思います。

○上野 会長 有機農業の比率が 1.5%というのは何の比率ですか。所得の比率なのか面積の比率なのか。

○武田支所長 面積です。

○上野 会長 藤島が 1.5 というのはやっぱり上がってないですね。

○武田支所長 藤島も鶴岡市全体もほぼ横ばいです。

○上野 会長 上がらないのはやはり要は苦勞が多い割には所得が伸びないということなのか。

○武田支所長 そうということになると思いますが、ただ、最近 JA 庄内たがわさんもかなり有機栽培米には力を入れてきております。以前は販売先を確保するのが非常に困難で簡単に栽培面積を増やせなかったのですが、現在は頑張ってたくさん作ればそれなりに販売できる目途もありますので、前よりは少しは伸ばす環境は整ってきているとは思いますが。

○上野 会長 販売できるというのは、それは普通の栽培米に比べて何割高くなるという保証は。

○武田支所長 例えばつや姫の場合は、今年の一俵あたりの概算金が 15,000 円、それに対して有機栽培のつや姫だと 28,000 円位で倍近くになります。ただ、それに見合うだけの収量を、つや姫は普通に作れば 9 俵くらいとれるわけですが有機栽培ではやはり 7 俵とか安定的にとれる技術力が伴うとそれなりの所得に結びつくということになります。

○上野 会長 ということは、目途というかそれなりの希望はあるということかな。ある程度栽培技術が向上すれば。

○武田支所長 特に除草技術が確立されれば拡大する目途は立つと。

○上野 会長 私からちょっと質問ですが、今後 5ヶ年で園芸を増やしていきましよう。ただ、その数値目標があつてそれに到達するための政策がどうもあまり語られていないような気がして。何をどうすればこうなるんだよというような誘導策、これはどうしましよう？

○**武田支所長** その部分の具体的な誘導策が言ってみればこの資料2の表にあるもので、これは主な内容をただ羅列しておりますのでそこをまた詳しく説明すればもう少し具体的にイメージできるのかなと思います。

○**青柳 庄内農業高等学校校長** 今、ご説明いただきながら鶴岡のコメプロジェクトということ、藤島発ということで、こういう事業展開を聞いて、こういう方向だなと私も実感しておりました。実は先週、農業クラブ全国大会が鹿児島でありました。たまたま市長さんともお会いしたのですが、こちらの方は鹿児島でいうと黒豚・さつまいも・焼酎の地元であるということもあり、大変盛り上がっておりました。全国大会の中の各地域で最優秀を取ったものの内容を見るとその研究がその地域の課題を解決する、なおかつその研究が地域とともに地域活性化に直接繋がっている、実践し普及拡大が図られているものが最優秀だったように思います。その中ですごく感じたのはストーリー、やはりその地域それぞれにあるストーリーをうまく活用しながら、実際に示しながらやっておりました。藤島といえばブランド米・はえぬき・どまんなかができ、つや姫・雪若丸ができてきた。庄内町では亀の尾からストーリーがあるというところが、やはり大きいのかなということで、実は1回目の時につや姫のストーリーというお話がどなたかの委員の方がされていたのですが、やはりそういうところをやっていかなければいけないのかなということ。それからだちや豆に続くということがございました。まさにコメだけではなくて次の何か特産になるようなものということで大切だなと思っておったところでした。この事業の中身に関してはそういうふう動くのだなということ、その藤島発というところで GAP がありますけれども、本校でも GAP の方にコメを中心に取り組んでいくということで今、動いていたところ。ぜひそういうところでもご指導いただきながら、できればこういう取り組みのパイロット的に本校が動けば大変ありがたいなと。そういう指導をいただければありがたいなと思っております。藤島の今は、つや姫と雪若丸ということになるわけですが、こちらの方をいかに増やしていくか、なおかつ他と差別化を取るかということでこういう事業があると思うのですが、これもまず一つ重要、まず基本になることです。しっかりとしたコメができていないと何も活用できないわけですから。なおかつそれを作る人がいないと困るわけなので、これが一つ。あと、これは後ろの方に関わってくるのですが、それにいかにストーリーを付けながら、例えばふじの花まつり等そういう祭りの中でいかに PR していくか、作っている人が本当に作りたくって作ったら得だと、あるいは作りたくなるような誘導策と先ほどございましたがまさにその通りだと思います。そのようなものがより具体的に出てくれば作る人も増えてくるし、藤島発のコメのプロジェクトまたは茶豆のブランドの確立というところがストーリーの中で出てくる、作る人も増えてくるのかなと思っておりました。庄農通信にも書いておりましたが、だちや豆スープであったりすいおうのシフォンケーキを作ったり、地域の食材を入れたおやきを作ろうなんて今、プロジェクトでやっているところです。どれが、なにが良いのかわからないのですが、いろいろなことを試しながらこのプロジェクトをやっているところで、我々

も参考にさせていただきながら実施していけばいいなというところです。先ほどお話ししたとおりそのところがより具体的なものが出てくるのでしょうかけれどもこの方向性の中で先程みたいなことが出てくると大変おもしろくなってくるのかなと感じました。感想で申し訳ないのですが。

OE 委員 先程もありましたが藤棚の老朽化が本当にひどくてロープを張っていますが、ある部分は鉄のパイプで補強しているようですがそれ以外でも危険で入らないようにとはなっていますがなかなかちょっと。応急処置でも良いからやっておかないと雪になったら落ちるのではないかなと。それから藤の剪定ですが、私の家にも藤があつて庭師に剪定を頼んでいるのですがすごく薄くしているのです。この藤島の剪定を見るとすごく厚いのでやはりそれだけ雨などの重みが棚に伝わって重くなるのではないかなと。もう少しあの辺の剪定などを考えればもう少し長持ちするのではないかなと思ってみているのですが。

OA 委員 たしかに Hisu 花(ヒスカ)は、あそこを通る度に見ますがあまり人がいない、通る時間も悪いのかもしれませんが。あそこに天気の良い時はいっぱい子育て中の人がいるとか、お散歩のコースの中に入っているとかいうのがすごく望ましいと思っていますが、実際見るのは少ない、いる時は数えるくらいしかいないというのが実感です。活用会議とかしていましたよね。あれって参加率がいいのかどうかすごく気になっていましたし、意見の中にもあるので利活用会議の結果はちょっと見えるのですが、本当に一般の人たちが行きたいと思える、そういうのがあると良いのかなと。私は、遊具はあっても無くてもそれほど思わないです。高い山がありますが、あそこを滑ってもいいとか。あれしては悪いとかこれしては悪いとか言われると誰も行きたくないと思うので。自分たちがしたいことをしていいよと。あまり、入りたい雰囲気というか、入っても良いのか悪いのかと思っている人もいるのかなとちらっと思ったりもするので、その辺、入りやすい雰囲気というか。柵がないので入れるのだけれども全くないと入りにくいところもあるのかもしれないし。誰でも来て良いのだよという宣伝というかそういうものも必要かなと。

O上野 会長 たしかに今現在の状態では入りたいという魅力がないんだよな。

OA 委員 そう、なんとなくね。それでこれから寒くなるのでイルミネーションをしようと思うのですが、そのイルミネーションは年間でできないのかなと思うのです。夏はそんなには言うけれども、夏だって暗くなるんだからイルミネーションがあつても良いと。藤の花が咲いていれば良いけれど、咲いていないので今が一番。イルミネーションで眺めると良いと思えるような。夏の暑い時に「じゃあ夕涼みに行ってみるか」とか、そういう人を寄せ付けるようなものが必要かと思います。

O武田支所長 まず先ほどの藤棚についてはこの事業でも計画的な修繕というのを挙げて

いますので。剪定についても Hisu 花（ヒスカ）と体育館の方はボランティアの方々から今やっけていただいています。指導を受けながらボランティアの方々をやっけていますので厚くした方がいいか、薄くした方がいいか、その辺も少し指導していけたらと思います。Hisu 花（ヒスカ）の活用ということでワークショップはやっけていますが。

○菅原 総務企画課長 大変関心をいただいている公園の活用というのは前の懇談会から引き続き頂戴しております。まず一昨年からは観光拠点化というような方向性に向けて主に通年の魅力づくりということで、3ヶ年の冬期間のイルミネーションの計画を組ませてもらってそちらを報告させていただきながら取り組ませてもらっています。いよいよ今年もだんだん藤が咲いてきて、大藤棚を何とか活用していこうということで今年のおふじの花まつりのサブ会場ということで2,000名ほど集まってもらいました。あと、まちづくり塾の方々から、明治ホールも含めてですが、冬のあつたかまつりという形でイルミネーションを活用しイベントを組んでいただいて。少しその活用の可能性というのが見えてきたところです。ただ、やはり市民の皆様から本当に自由に自分たちのアイデアで活用していただきたいということで、この度住民参加型のワークショップという形で、15名の定員だったのですが20名の方から手を挙げていただきまして、20歳から70代までのいろいろな様々な地域で活躍していただいている方、または地域外からもご参加いただいているという、そういった取り組みで今後は、整備中心から本当に活用していくと。近隣公園として町内会の方々のイベントでは使ってもらっていますが、ここを拠点として、記念館を含め、新しい交流が生まれてくるような、そういった所を目指して継続をして取り組んでいきたいと思っております。そういったことでこの事業を未来事業として提案していきたいと思っております。

○上野 会長 ひとけのある公園というか、人気のある公園を。あまり歴史にこだわらないで。人気のある公園と言った方がいいかな。

○A 委員 例えばあそこに鉄塔がありますよね。どうしてそこに鉄塔があるのか。そういうことをどこかに書いておくと親が子ども達にこういう歴史があるのだと話ができる。電気事業組合の記念館の事務所になっているところとか、そういうのを関連付けた、難しいお勉強ではなくて楽しいお勉強ができるようにしておけば、子ども孫を連れて行くかな、となりそんな感じもします。ちょっと説明があるとか、そこにずらりとイルミネーションがある、そういうのがあって欲しいなと思っております。

○E 委員 この間、どこかの幼稚園が遊んでいたようですが、やはりそういう幼稚園や保育園なんかにもどうぞという形で。例えばその中で子ども達に山登り競争をさせるとかそんなことをさせれば、「よし、じゃあ、普段も行っておいてあそこで練習するかな」とか。アイデアをもう少し出しておいて使うようなことをしていけば良いのかなと。ただ入って

も良いよというのだけではどうしようもない。

○菅原 総務企画課長 ワークショップの中でも築山をうまく使って子どもたちから楽しんで遊んでいただくような、そういったアイデアと言いましょか意見も多数いただいております。少しずつ形にできるようにしていきたいと思っております。

○F 委員 藤島だから藤の花をメインにしたまちづくりというのをず〜っと何年もしてきたのですが、藤の花そのものというよりはそこに集う人との交流がちょっとないがしろにされてきたのかなと思います。それが昨年あたりからはワークショップでいろんなことをやって、やはり人がいてこそその地域の活性化だという、そういう方向になってきたのはすごく良かったかなと思います。藤棚の修理という話があって、ちょっと水を差してしまう感じですが、体育館の藤棚というのはもう少し縮小できないでしょうか。あそこを観光の拠点にしてどうするのっていう感じの方が強いのですが。それよりだったらもっと藤島でお米の話でつや姫ロードの話も農業部会で行っていましたし、昨日の秋まつりで試食担当だったのですが、そうすると最初につや姫を食べて、そしてササニシキ、玄米とか。30代か40代の女性が最初につや姫を食べてきてこっちに来て「どうです?」「違いでしょ?」とか「わかります?」とか声をかけるわけですが、そうすると向こうの方から逆に「つや姫とコシヒカリって関係ありますよね」とか言われてしまって。確かに地域へのコメのストーリー作りってさつき先生からありましたが、それを結構周知していないというか。亀の尾だったら余目でも徹底的にやっているのだけれどもつや姫の親の方にコシヒカリは出てきますよね、たしか。だから「はい、そうです」なんて言ったのですが、そういうのもっと地域の中でストーリーとして、誰でも答えられる、そういうのがなんか欠けていたかなって私、思います。それはぜひ作って欲しいかなと思います。

ついでなので農業のことに関して、やはりいろんなこと、所得とかいろいろあるけれども人材を具体的にどう確保するのかというのをもっと煮詰めて欲しいなと思いました。確かに農業をする人が少なくなってきて、やっている人に田んぼは集まってきてはいるけれども、それも結構手一杯になってきているので新規参入する人なら例えば園芸を徹底的に教え込むとか指導するとかして、どこからその人を確保するのかとか。もっと具体的なことを練りだす、Iターン、Uターンをもっと進めるとか。観光でもなんでもそうだけど。魅力ある人が来れば人はついてくるし、やっぱり人だと思いました。

○OG 委員 どこの分野でも人、人材を育成していけば、いろんな仕事の上でも、育っていくのかなと感じております。ただ、私自体も農業の方は全く経験がないわけですからこれといった意見はちょっと出せない感じなので、皆さんの意見を聞きながら今後勉強していくという形になろうかと思います。

私からは防災関係、前回もありましたが、ここ最近、京田川・藤島川の増水・氾濫・危険水位になって住民の皆さんに危険だよということで、消防団、水防団として皆さんにお

知らせしています。そういったものが少し低減できれば災害がちょっと少ない藤島地域だよというようなことが発信できるかと思っております。

○上野 会長 確かに今は藤島川・京田川はいつでも氾濫の一番に出てきます。藤島川・京田川は藤島を縦断しているのです。つまり、まず藤島地域の半分以上があそこの危険地域になるのかな。

○G 委員 まあ、そういったニュースがなくなれば、少しは住みやすいというイメージが上がるのではないかと。近年そう思います。

○A 委員 最初に子育て関係でランドセルの話が出た時に、ランドセルの配布は復活できないというお話でした。それはわかるのですが、ランドセルに限ったことではなくて今までの良かったことを廃止、鶴岡市全体で均される、そういったことがすごく多いと思うのです。地域特性とか地域の発信力を増やさなければ、大きくしなければと言いながら、敬老会もそうだし子育てのそういうランドセルもそうだし、鶴岡市全体でみると他ではしていないからダメだとかっていうそういう考え方にすごくもどかしい思いをします。良いものなら鶴岡市全体に広めればいいじゃないかと私などは簡単にそう思ってしまっただけで、予算が先立つことは確かにあるかもしれないですが、例えばハイヤー券を免許返納した方という話も出ていますよね。そういうのだって全額でなくても何%助成するとか。ちょっと今はランドセルしか思いつかないのですが、ランドセルだって何万円もするもののいくらかを助成するとか、そういう方向性を探っていくのが市役所の職員の皆様であり、先々人がいなくなるという話だったので、子育てしていきやすい環境でなければその子ども達も増えていかないわけだし結婚する人も増えないわけなので。あれもダメこれもダメ、前例もないし均さなければならぬ、そういう考えをしていくから先詰まりになっていくのではないかなと思います。その辺をもっと柔軟性をもって全体を、十年先、二十年先をみて地域住民を引っ張って行って欲しいなというのが私の思いです。

○上野 会長 難しい話ですよ。やっぱり市では市のある程度の基準というのがあるのだらうし。それからはみ出してはいけないものがあるだらうしはみ出しても良いものとの区分けの部分の部分が大切だらうかと。

○B 委員 藤島に嫁いできて20年目になりました。子どもを3人育てて、藤島の自宅を拠点に酒田にも出勤し鶴岡にも出勤している一住民としてこの計画のお話を伺いながら思ったのですが、このまちづくり・くらしの面に関しては一住民としてはすごくワクワクが詰まっているお話だったなと思っています。ぜひ「あれは何をやってるんだ？」という動きではなく「そういうことをやってるんだな」という目線からその動いているものが見えるというものをぜひ希望したいなと思いました。例えばこの間のワークショップ絡みで

Hisu 花（ヒスカ）で子ども達が集まって活動されていたことなのですが、私は情報として知っていたので「今日はこういうことをしていたな」と見ていたのですが、他の人たちはやはり情報が行き届いていないので「あれ、今日は子ども達がいたけど、何してたのかな」という声が結構ありましたので、「ああ、今日はそれがあるんだったな。にぎわってるな」という住民が思える、どこかに書いてあったのですが、地域の人たちが誇りを感じられるようなそういう事業展開をしていただけたらいいなと思います。

仕事からみて、私はフリーの健康運動実践指導者としてお仕事をさせてもらってるのですが、この暮らしの方でもウォーキングをしてポイントが貯まる活動とか 100 歳体操などもすごく全国的に注目度が高く、私はまだ全然経験もしていないのですが、すごく評判の良い事業でしたので、もし老人クラブ単位で補助を受けながら実践されていくのであればすごく良いのではないかと思います。あと、私、月 1 回ペースでふれあいセンターをお借りして声をかけてヨガを無料でやっているのですが、午前中は 10 名の方から集まっていた夜は 20 名ちかくの方から集まっていただきました。特に昼は 11 時半で終わるものですからやはり帰りにはふれあいセンターの中に入ってお買い物をしていけるような感じだったら良いのにとすごく思います。というのは、やはり私、子育てしていて午前中、支援センターを利用してふれあいセンターに行って遊ばせて帰りにあそこですごくにぎわっていたものですから、オープン当初は、お昼の物をちゃんと買って帰ることができていたことを経験しているのです。活気のあるお店の中になれば良いのにとすごく思います。あの頃はすごく勝手が良くて良い思いをさせていただきましたので。

○上野 会長 あそこは元町活性化の中心地なのですよ。一番最後にも書いてありますけれども、ふれあいセンターの再構築ということで。庄内農業高校との連携事業を踏まえてと書いてあるのだけれども。庄農うどんの話でもあるのかなと思うけれども、これ、少しは具体化しているのでしょうか。

○青柳 庄内農業高等学校校長 本校の方でもセンターをぜひ使わせていただきながらいろいろ考えてはいるのですが、我々の一番の困り感は生徒の数です。やはり 2 クラスになって数がないものですから。生徒がいっぱいいるうちはいろいろと、例えばこの授業の日程でそこを使わせていただきながら販売もするということが可能になってくるのですが、生徒がいないことにはどうしても。特に数が少ないということもあってちょっと難しくなっているところもあります。ただ、先程ありました庄農うどんとか先日もコラボラーメンとかもやっておりましたが地域の方にぜひ普及拡大を図れるようなところにもっていきたいと思っておまして、できる範囲で少しずつですが増やしてはいるという状況です。また、中のオープンなども使ってもいいということでしたので使わせていただいている状況もあります。去年今年と少しずつですがそういう活動をしていけるようになってきております。何とか生徒の志望者を増やしてできるだけ地域の子も達が地域にいられるような方向にもっていきたいと考えておりました。よろしくお願いたします。

○上野 会長 このページの具体的事業の庄農高との連携というのは何をどうするというのはないのかな。今、青柳校長のお話にもあったように庄農高も入学生徒数が少なくなっていてどこかで活性化対策を打たなければいけないと私は思うのですが。それも一つの地域の具体的な活動を少しは具体的にできないのかな。具体的に事業として。

○菅原 総務企画課長 庄内農業高校の地域連携事業というのは平成25年に地域の9団体ですけれども協議会を立ち上げております。これは市全体の視点から見ましても加茂水産高とともに産業高校ということで魅力づくりには大変重要だということで市の主要事業としても取り組みをしているところです。特に藤島地域は農業の町ですので農業高校という形で存続していただくとすることは非常に重要だと認識しておりますし、またこの事業の中では今日の庄農通信にもございますが、地域農園ですとか今年は昨年から2学級になった中で食文化を学ばれる学科、カリキュラムもできたということで、そういったところを、あくまでも市は側面支援というような形ではありますが、市の食文化の担い手に繋がるような取り組みとして支援させていただければと思っております。

○上野 会長 たしかに高校再編の話はいろいろ進んでいますが、かと言ってやっぱり庄農高の位置づけが下がってもまずいわけですから。だから学校統合はまだ明確にはいつとは決まっていないわけですから。まず頑張って、庄農高の位置づけを上げておいて合併するのと下がってから合併するのとではやっぱり話が全然違うので。やっぱり支援策を行政でも行って行ければと思います。

○C 委員 お願いなのですが、最後の6ページに高齢者を対象とする住民自主活動の支援で新たな補助金制度創設、「高齢者住民自主活動支援事業補助金」を創設する云々と書いてあります。ご承知のとおり10月1日から地域包括支援センターに生活支援コーディネーターが配属されて介護予防事業に取り組む形になっているわけですが、当然補助金ですから100%支出するという訳ではないと思われま。当然その地元町内会とか自治振興会の予算化というものが必要となるわけです。ですから創設されるのであれば、できるだけ早い機会に地元で説明とか地元で検討していただくような、町内会であれば2月頃に総会が開かれるわけですので、やはりその前にその概要などをお示しいただいた方が良いのかなと思います。そうでないと結局、仮に制度を創設されても地元で予算化されなければ事業はできない、1年遅れ2年遅れになってしまうということになるろうかと思っておりますので、地域の予算がまとまる前に1つお願いしたいと思っております。

○伊原 市民福祉課長 今の未来事業の補助金、新しい補助金制度の検討を要求していくわけなのですが、ご存知かと思いますが予算要求して実際に査定が入りましていいですよとなってから議会にかけてという手順になるものですから、私どもとしても決まれば早く

お知らせしたいという気持ちはあるのですが、果たしてそのところがあらかじめお知らせできるかどうかというのはやはり議会の議決を待ってからというところになるのが通例なものですから。やはり難しいところもありますがある程度骨格なりをお示しできるものがあれば、その時は早めにお知らせしたいと思います。

5. 閉 会（菅原総務企画課長）